

目指す学校像	保護者・地域から信頼される学校 ・明るいあいさつと笑顔があふれる学校 ・落ち着いた生活の中で成長を実感できる学校 ・互いの良さを認め合い、生徒、教職員の温かな心の触れ合いがある学校
--------	---

重点目標	1 真の学びの育成 2 心豊かな生徒の育成と生徒主体の学校づくり 3 地域・保護者に信頼される学校づくりと地域全体で生徒の成長を支えていけるコミュニティ・スクールの推進。 4 小・中一貫教育の推進と教職員が主体的に取り組む研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標			年度評価				実施日 令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、すべての実施教科において、全国、県、市平均と比べ良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、「(5教科)の勉強は好きですか」「学校で学んだことと自分の将来のつながりを考えたりしていますか」の肯定的な回答をした生徒の割合が教科や学年によっては市平均よりも低い。 〈課題〉 ○学習する意義や必要性は感じているが、学ぶことの楽しさを実感し、現在の学びが将来とつながるように感じることができるようになること。 ○学びの自律化や個別最適化、探究的な学びのさらなる深化。	・情報機器等を活用した学びの自律化や個別最適化、探究的な学びの深化 ・学習意欲を高め、主体的に学ぶ生徒の育成	① スタディサプリ、ドリルパーク、などを活用し、個に応じた学びをさらに推奨する。 ② 総合的な学習の時間で STEAMS Time や SDGs の実践をより深化する。 ③ プログラミング学習において micro bit や Forms 等を活用した深い学びの実践	○ 市学習状況調査生徒アンケートで ① 「PCを利用して、探究的な活動ができたか」の肯定的回答が90%以上 ② 「学習の中でPCなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と回答する生徒が90%以上。 ○ 学校評価生徒アンケートで 「進んで学習に取り組んでいる」「授業が楽しくわかりやすい」の項目で肯定的な回答が85%以上、「家庭学習に取り組んでいる」の項目で肯定的な回答が70%以上					
2	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査、市の学力状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回っている。一方で「将来の夢や目標を持っていますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は全国・市平均を下回った。 ○様々な要因から教室へ入れない、登校時刻に登校ができない生徒がいる。 〈課題〉 ○生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援し、学校に元気に通えるようにする。 ○教室に入れない生徒については外部機関等とつなげ、学習の機会を確保する。 ○自分たちの学校生活の向上や安全や安心を保つための生徒主体の取り組み	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・生徒の主体的な活動を通して、自己肯定感や自己有用感を高める。	① ICTの活用や教室以外で学習できる体制を整え、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 ② 学期ごとの二者面談や年1回の三者面談の実施など生徒の心の変化に寄り添う。 ③ 学習室の整備と外部機関との連携	○ 学校評価保護者アンケートで「学校はお子さんの事について連絡・相談したことについて適切に対応している」の項目で肯定的回答90%以上 ○ 学校評価生徒アンケートで「先生は相談や悩みをしっかりと聞き、親身に対応してくれるか」の項目で肯定的な回答が90%以上 ○ 心と生活のアンケート(第3回目) ① 「自分のことが好き」の項目で、肯定的な回答が85%以上 ② 「毎日が楽しい」の項目で、肯定的な回答が85%以上 ○ 生徒が主体となり取り組む行事や生徒の思いを組み入れた生活の決まりの改善などを実施できたか。		B			
3	<現状> ○昨年度、学校運営協議会を立ち上げ、学校の課題について熟議を行いながら、地域・保護者と学校で、生徒の成長を支えていくことを確認した。 ○新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事等での地域・保護者参観の制限があった。 <課題> ○地域とのかかわりを少しずつ取り戻していく必要がある。 ○学校の教育活動や生徒の様子などを地域や保護者に実際に参観していただく機会を増やし、HP等で情報発信していく必要がある。	・地域と生徒の温かな交流が図れる機会づくり ・HPや学校だより、安心メールを活用し情報の積極的な発信 ・教育活動の参観機会の設定	① コミュニティ・スクール等を通して、地域と生徒が関われる機会を相談し、みつける。 ② 生徒や教員の負担とならない程度の内容で地域と関わる。	○ 生徒と地域が関わる機会を学校運営委員会等で確認し、見つけることができたか。 ○ 学校評価の教職員アンケートで「学校はお祭り等で地域に貢献している」の項目で肯定的な意見が80%以上 ○ 学校評価保護者アンケート①「学校は参観機会を設けている」の項目で80%以上②「学校だより等で情報を発信している」の項目で80%以上の肯定的回答を得る。 ○ 毎学期、保護者の学校への来校機会を設定できたか。また、地域への公開が年間1回実施できたか。					
4	<現状> ○小・中一貫教育の研究委嘱を受けて3年目となり、本年度11月にその成果について発表する。 ○教職員の研修意欲は高い。 <課題> ○小学校との連携のもと研修を充実させ、小・中一貫教育の研究発表でその成果を発表する。 ○様々な教育課題に適切に対応できるよう、教職員一人一人に合った研修を行う必要がある。	・小学校との連携を基に、協働して高め合える研究の推進 ・教職員それぞれの課題にあった研修の実施	① 小・中合同で授業力向上に係る校内研修や相互に参観する授業公開期間を設け実施する。 ② キャリア navi や振り返りシートを活用し、教職員自身の課題を見つけ、それに合った研修を行わせ資質向上を図る。	○ 「小・中一貫教育」の充実に向けた小・中合同研修会が年3回以上実施されたか。 ○ 全教員が自己の課題に応じた、研修に主体的に取り組むことができたか。 ○ 学校評価教職員アンケートで「校内研修の成果や課題が教育活動に生かされているか」の肯定的な回答が90%以上					